

市民の森では

どんな活動をしているの？

市民の森では、年間を通じていろいろな催しが行われます。その一部を紹介します。

興味を持った活動、体験してみたい活動はありませんか。活動に参加して楽しい汗をかきましょう。ぜひ、市民の森に足を運んでみてください。

催しは毎年趣向を凝らして実施されますので、紹介した内容と異なる場合もあります。「広報ちの」に募集要項が掲載されますので、内容をご確認ください。

森開き

狩猟期間も終わり、雪も融けた頃にシーズンのスタートとして茅野市主催で「森開き」の式典が行われます。

森開きのプログラムは、毎年変わりますが、過去に行われたプログラムを紹介します。

●どんぐり、くるみの種まき

秋に集めておいたどんぐり、くるみを苗畑に植えます。

しばらくすると発芽しますが、新芽は鹿の好物なので、食べられないよう鹿避けネットを張り保護します。そして、2～3年して苗木に成長したら、間伐して明るくなった林に植樹します。



●散策

駐車場から野鳥の楽園まで、みんなで歩きます。

散策路の脇には、真っ白なコブシの花が咲いています。春を感じながらの散策です。



●野鳥の巣箱かけ

用意された巣箱キットを組み立て、森に巣箱を掛けます。



自分が掛けた巣箱を一年間観察することで、森に親しみ、森の動物たちを知る機会となります。



●落ち葉集め

堆肥にする落ち葉を集めて集積場所まで運びます。子どもたちは、自分たちがまいたどんぐり、くるみのために、一生懸命袋いっぱい集めてきます。



●樹木の名札かけ



樹皮、葉、枝ぶりを観察して樹木の種類を知り、名札を掛けます。

人との交流と同じで、樹木の名前を知ることによって、いっそう親しみがわきます。

育林祭

毎年秋には育林祭が催されます。どんぐりから育てたコナラやクルミ、モミジなどの苗を植樹します。

育林祭では、植樹の後に、豚汁が振舞われたり、焼芋を焼くなど、参加者が里山や人とのふれあいを楽しむためのプログラムが用意されます。



中学生・高校生の総合学習

小径木の伐倒や枝払い、ロープワークといった作業体験のほか、遊歩道の散策、野鳥や草花の観察や野鳥の巣箱づくりと巣箱かけ、樹木の名札付けといった動植物の学習など中高生を対象とした総合学習の場として活用されています。

中学生の総合学習

● 間伐体験



● 森の観察



高校生の総合学習

● 間伐体験



高校生の間伐体験で作られた池の畔のベンチを見て下さい。
池を見渡せる位置に設置され、水面に映る景色が楽しめます。
みんなの、憩いの場となりそうです。

